

ている。

それではこのようなことがなせかなうか。その根拠についてのべよう。

(一) ①教育科学的根拠が出来た。

②制度的基盤を支えられた。幼稚園教育機関が早く公立化された

(一八七三年に成されている)

(二) 学校関係の一部として早く認められた。

(一八九一年に認められている)

(三) 養成機関の協力があつた。すなわち現場教師が團結している。一八九二年に團際幼稚園連合がつくられ一九三〇年には、保育所、幼稚園、小学校低学年の先生で幼年教育協会がつくられた。

第二 教育内容について、簡単にのべると、低学年にふさわしい教育内容をもり込んでいる。幼児教育学、幼児文学、保育理論、教育学、教育実習などが充実にしている。

第三 教育内容をいかに学生に与えているかと云えば、理論と實際が統合化されている。教育実践に直結している。教育実習は一年間に四度おこない、四才児に九週間、五才児に九週間、一年生に九週間、二年生に九週間と、それぞれ九週間ずつ発達段階に応じて実習をおこなっている。

第四 養成機関と付属における関係、付属と大学における関係はきわめて緊密である。

第五 の現職教育の問題については大学において活発におこなわれている。

× × × ×

わが国における保母養成問題

名古屋市立保育短期大学 遠藤 邦三

保育所が本格的に認められたのは、昭和三十二年児童福祉法制定後のことであり、保母養成も児童福祉法制定以後の問題である。今日この養成施設として左のものがあつた。

(一) 都道府県立保育専門学校(厚生省中心)二十九校(現在出来つつある所もある)

(二) 私立短期大学の児童科、保育科、三十一校

(三) 科目を免除して実習のみの学校が六校で(一)にみられる二十九校は、都道府県数に比べると全く少ない数なのである。

児童福祉法三十五条には「児童福祉施設の職員の養成施設を付置することが出来る」とあり、ここに保母養成施設の法的根拠の弱さがある。故に今後は「各都道府県は保母養成施設を付置せねばならぬ」とすべきである。

現在保育所の数は最近の統計によると、九七〇〇、保母の人数はそれに対して、二八〇〇〇人、そのうち養成施設の卒業者は、七なにし八〇〇〇人に足りない有様である。後の二万人は、保母試験で資格を取った人でまに合せているのである。

幼児期にいたるほどその教育は重要である、と云いながら、これでは「日暮れて尚道遠し」である。

次に保母資格試験についてのべると、資格試験は、三、四日間八科目の講習をおこないその八科目の筆記試験をおこない、成績の

良い者が資格を得ているのである。

保母は才能だけでつとまるものではない。ソ連アメリカなどの外国では、養成機関を三年四年と延長しつつあるのに、わが国の現状では三、四日の講習で資格を取った人が三分の二以上も現場にいるといった状態である。

次に養成所の教科課程について述べると、養成所においては、保育所の職員養成だけでなく、児童福祉施設の全般にわたって勤務するものとして養成している。このため教科課程は山ほどあつて、いきおい詰め込み主義にならざるを得ない。学生は教科に追われているというような多くの不合理が存在する。

最後に、今後は保母資格に、教員と同様な段階を設ける必要がある。二年間やろうと、八日やろうと資格には何ら変りはない、このためかえつて、二か年修業者の就職率悪化といったなごけない現状なのである。

幼稚園教師養成制度の現状

宝仙短期大学 岡田正章

この問題は本会において、一昨年、昨年と討議され、陳情書まで出されて、今また、取り上げるに至つては、ありきたりな問題であるとも言えるけれども、またそれだけ大切な問題なのである。

政府は陳情書まで受けていながら、その後何らの変化もみせていない。この間に養成制度には危機がやってくる。具体的に言つて、この養成機関に進学する者の数が非常に減少してきている。

三十一年度、二三六六名の進学者に対して三十二年度は一九二二名、三十一年に比べると五分の一も減少しており、定員にみたない学校さえ出ているのである。

養成機関の内容を充実しても、呼べども人が入つて来ないので、教員のめざましい養成は不可能になるのではないか。

この養成機関の卒業者をすぐれた幼稚園教師として期待する場合、次の二つの態度が現在あるのではないか。

一、積極的な態度

一人でも多くの学生を呼ぶためには今日PR活動を盛んに用いなければならぬといった立場をとるもの

二、消極的な態度

小、中教育とは、本質的に違ったものである。そこが若い人々を引きつけ魅力であるなら、自ずから若い人々が来るはずである。

しかし、一、二、兩者共、極端になつては、必ずしも有能な学生を引きつけることにはならないのではないか。すなわち、養成機関が幼稚園教育が魅力があるPRをして学生を入れても、保母生活がひからびたものであつては、一旦この道に入ったものも他の職業に転じてしまうことになる。

文部省の調べては、三十一年度の幼稚園新就職は三、三八八名となつてゐる。幼稚園教師の就職は決して悪くないにもかかわらず、進学者の少ないのはなぜであろうか。アメリカの教育行政研究家のノルマンは「教えることへの願いを、青年の中にはくむ」と、教師の重要な役割を語っている。

アメリカでもそうした危機はいくらかあるようであるが、教員の役割として、正しい教員観に対する啓蒙を考えなくてはならない。関連したもう一つの大きな問題は、幼稚園教師の待遇にあるのでは